

## 2019年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2020年4月1日
研究・研修課題名	病態栄養認定管理栄養士資格所得のための学会参加
研究・研修組織名(所属)	栄養治療室
研究・研修責任者名(所属)	飯田 香澄(栄養治療室)
研究・研修実施者名(所属)	飯田 香澄(栄養治療室)

成果区分	<input checked="" type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果( )
該当者名(所属)	飯田 香澄(栄養治療室)
学会名(会期・場所)、認定名等	第23回日本病態栄養学会年次学術集会(2020年1月25日・26日、京都市国立京都国際会館)
演題名・認証交付元等	日本病態栄養学会
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

## 目的及び方法、成果の内容

## ①目的

日本病態栄養学会では、病態栄養認定管理栄養士の認定資格制度が定められている。この資格は、臨床における栄養状態の評価、栄養補給、栄養教育などの栄養管理能力を有する管理栄養士に対する認定資格である。

院内の栄養管理の向上を目指して、この認定資格の取得要件となる学術集会に参加し受験資格の単位を取得することを目的とする。

## ②方法

認定試験の受験資格は次の各項の条件を全て満たす必要がある。

- ① 2年以上本学会会員であること。
- ② 管理栄養士の資格を有する者。
- ③ 医療機関で3年以上の業務(栄養管理)経験を有すること。
- ④ 以下の条件を満たすこと。
  1. 本学会に関連する活動として10単位以上を取得していること。
  2. 栄養管理に関する5症例のレポートを提出すること。
  3. 本学会の主催する教育セミナーを受講修了していること。

本研修において要件④1の条件を満たすため、第23回日本病態栄養学会年次学術集会(2020年1月25日・26日、京都市国立京都国際会館)に参加し単位を取得する。

## ③成果

病態栄養認定管理栄養士の資格取得のための必須研修である、日本病態栄養学会年次学術集会に参加し、資格取得に必要な単位数のうち10単位(学会参加5単位、発表5単位)を取得できた。

学術集会では、がん患者の栄養管理のシンポジウムにおいて、化学療法や緩和ケア時にはがんの病態をよく理解し、治療の完遂を目的とする栄養管理だけでなく、がん患者の食事の楽しみを支援していくことも重要という内容が印象に残った。その他では「カーボカウントの実践」「心不全と栄養」「ICUにおける栄養管理」について、教育講演を聴講した。カーボカウントの実践については、食品交換表

(様式1)

に基づいた食事療法（エネルギー量やバランス）を理解して実践出来ることが、カーボカウントの前提であるという話があった。カーボカウントは大きく、各栄養素と血糖値の関係や食品交換表に基づく食事の糖質量を把握する「基礎カーボカウント」と、食品中の糖質量とインスリン投与量を一致させる「応用カーボカウント」に分けられる。「応用カーボカウント」をマスターすると、患者さんは比較的自由的な食生活と良好な血糖コントロールを両立することができる。その両立のサポートができるよう、今回学んだ内容をわかりやすく患者さんに伝えられるようにしていきたい。また、心不全における水や電解質のアセスメント方法や ICU 入室患者に対するアセスメント方法について学んだことで、治療や病態に応じた栄養アセスメントをすることが、患者さんの栄養状態改善・維持に繋がることを再確認できた。

デジタルポスター発表は「副腎皮質機能低下症を合併した難治性浮腫、低栄養の高齢男性の1例」（症例報告③P-144）について行った。本症例の患者さんは、原疾患に副腎皮質機能低下症や従来の偏った食習慣が加わり難治性浮腫、低栄養が出現していた。それらに対し、多面的治療が奏功した経験について述べたが、その中でも特に、食事形態や嗜好への対応といった栄養サポートが、食事摂取量低下による低栄養改善のためには重要な役割を果たすと考えられることを示した。

今回、病態栄養認定管理栄養士の受験資格に必要な要件のうち、④1 の条件を満たしたため、2020 年度に他の要件（④2・3）の受験資格を満たし、資格取得を目指す。この資格取得によって習得した専門的知識および技術を活かし、患者さんに対してより良い栄養管理を行えるよう取り組んでいきたい。